

小中学生における Grit と自尊感情の関係

長田 敏希 (山梨大学)

1. 目的

本研究は、小学 4, 5, 6 年生及び中学 1, 2, 3 年生を対象に Grit と自尊感情の関係を検討し、さらに、Grit と運動・スポーツ実施の関連に自尊感情が介在しているかを検討することを目的とする。

2. 研究方法

1) 対象者

山梨県甲州市の小学校に通う小学 4, 5, 6 年生 513 名 (男子 283 名, 女子 230 名) とし、中学生においては、十分な分析対象数を確保できなかったため、今回の検討には加えないこととした。

2) 調査方法

調査は、対象者に対して自記式質問紙を配布し、実施した。Grit については、「一貫性尺度」「根気尺度」の 2 つの下位尺度で構成される、8 項目版の Short Grit 尺度 (Duckworth and Quinn, 2009) を翻訳修正したものを用いた。自尊感情については、「受容的側面」「評価的側面」の 2 つの側面で構成される、2 項目自尊感情尺度 (箕浦・成田, 2014) を用いた。両者とも 5 件法で回答を求め、質問ごとに点数化した。運動・スポーツの実施の有無については、「スポーツ少年団やクラブチームなどの団体に入って、運動やスポーツをしていますか」という質問を行い、「していない」「している」の 2 つの選択肢から回答を得た。

3) 分析方法

分析は、EZR version 1.36 (64 - bit), SPSS Statistics 17.0 を用いて、相関分析、対応のない t 検定、共分散分析を行った。

3. 結果と考察

Grit 得点と自尊感情得点の相関分析の結果、両者の間に正の相関関係が認められた。この結果から、因果関係は分からないが、自尊感情が高く、「自分は努力すれば、成功できる」と自己を肯定的に考えら

れる人は、Grit が高く、粘り強く努力することができると考えられる。Grit 得点と運動・スポーツ実施の有無の関係を検討した t 検定の結果、全体と男子の Grit 得点と根気尺度得点において、運動・スポーツ実施あり群の方がなし群より Grit 得点が有意に高かった。一方で女子においては、運動・スポーツの実施と Grit 得点や根気尺度得点に有意な差は認められなかった。また、女子は運動・スポーツを実施していなくても得点が高かった。これらの結果から、男子は先行研究と同様にスポーツ活動との関連が示唆されたが、女子はスポーツではなく習い事や他の要因がより強く Grit と関連している可能性が考えられる。自尊感情得点 (各下位尺度) を調整して、Grit 得点 (各下位尺度) と運動・スポーツ実施の有無の関係を検討した結果、t 検定の際の運動・スポーツ実施あり群となし群の平均値の差と比較し、自尊感情得点 (各下位尺度) 調整後は全ての場合で平均値の差が小さくなった。また、Grit 得点と根気尺度得点については、評価的側面を調整時の根気尺度得点を除いて、全ての場合で有意な差が認められなくなった。これらの結果から Grit と運動・スポーツ実施の関連には、自尊感情が介在していることが示唆された。

4. 結論

Grit 得点と自尊感情得点の間に正の相関関係が認められた。下位尺度においては、根気尺度得点が、自尊感情得点 (各下位尺度) と関連を示した。また、Grit 得点と運動・スポーツ実施の有無の関係には、自尊感情得点が介在している可能性が示唆された。

5. 主な参考文献

Duckworth, A. L. and Quinn, P. D. (2009) Development and validation of the short grit scale (Grit-S) *J. Pers. Assess.*, 91: 166-174.

箕浦有希久・成田健一 (2014) 2 項目自尊感情尺度の妥当性の検討-評価的側面・受容的側面それぞれに注目して-。感情心理学研究, 22: 36.